

第6回 <まち探検隊>

- 日時 ; 平成14年 6月 14日 14時 ~
集合場所 ; JR 琵琶湖線 栗東駅
参加者 ; 角野、加藤、近藤、酒井、駿河、中尾、鉤
目的 ; 栗東市コンペ (仮称)びわこ栗東駅周辺 “まちづくりアイデア構想”
提案書作成のための 現地踏査、確認。
参考資料 ; 1.日本、滋賀県、栗東市の位置関係図
2.コース図
3.新駅付近航空写真
4 動画



栗東駅前の デッキ。

芸術文化会館 さきら

今回の提案書作成にあたり、現地踏査のための集合場所、JR 琵琶湖線栗東駅に降り立った時の第一印象は、何かがらんとした田園風景の中に、えらく立派なマンションが建っていた事、駅東側と、西側の風景に大きな差を感じた事である。この駅も出来て未だあまり時間はたっていない。平日の昼下がりと言う時間帯のせいもあるが、人通りもまばらである。

駅とマンションを結ぶデッキを通り抜け、目的地に向かう途中、“さきら”と言う 栗東芸術文化会館を見学した。パルテノン神殿を見ているような、柱列、大きな人工滝、滋賀県には、大津に関西一と言われる琵琶湖ホールがある。近くには守山市、野洲町にも同じような立派な施設がある、こんなに沢山同じような施設が必要なのかな、とふっと思った。

この度、新駅の出来る所は 下鉤(しも magari) という地名であり、先ほどの さきら のある所は 縷(へそ)と言う所である。地図を見ていたら 上鉤(かみががり)、浮気町(ふけちょう)、穴村町(あなむらちょう)、葦浦町(あしうらちょう)、目川、野尻、坊袋、閻魔堂(えんまどう)・・・等などこの辺りは愉快的な地名の多い所である。



草津線陸橋より新駅設置場所を望む

そんなことを思いながら現地に着いた。農地、民家、工場、国道1号線、大きな送電線用鉄塔、JR草津線など混然とした所である。反面、大きな活力を感じる所でもある。

滋賀県はもともと農業県であったが、名神高速道路の開通で、其の沿線に沢山の工場が誘致され、工業県に変貌した。しかしまだ農地は沢山あり、その利用価値は大きい。また今回の新駅の設置に伴い、既設のJR在来線、名神高速道路、国道1号線、八号線、さらに今建設中の第二名神高速道路とのネットワークにより、交通の利便性は格段に良くなり、この地の発展性は大変大きいと思う。

中央に琵琶湖があり、西に比良、比叡山系、東に鈴鹿山系を頂き、其の自然の癒し効果は大きい所でもあり、また東京、奈良、京都に次いで文化財の数も多い所でもある。

その昔、東海道と中山道の分岐点でもある草津の近く、交通の要所でもあった。

また新聞記事によると、2030年人口が増え続けるのは滋賀県だけである、とも書かれていた。其の恵まれた地の利を生かし、現代の本陣として栗東、近隣市町村、滋賀県が、均衡と取れた発展をしていくように願いつつ、参加者全員、精力的に暑い中の現地踏査を終えた。

皆様ご苦労様でした。



栗東市の東にある文化財、
家康の病を治した薬屋の建物。



琵琶湖に浮かぶ ビアンカ。



以上 栗東市 まち探検隊 の報告終わり。